

# 津山市史だより

2014.10  
創刊号



8月22日 近現代部会 支所保管文書調査の様子



新しい市史の編さん  
開始にあたって

津山市長 宮地 昭範

昨年は美作国が建国されて1300年という節目の年でした。本市は周辺市町村と連携・協力して、様々な記念事業を開催しましたが、郷土の歴史や文化を学びながら、現在の地域の状況を見つめ直すという気運が高まったのではないかと思います。

地域の置かれている困難な状況を克服し、新たな津山市を創造するためにも、市民の皆様が未来に目を向け、地域の歴史や文化の中に誇りやアイデンティティを見出すことは肝要です。

このたび本市において編さんを始める新しい市史は、最新の学問成果と資料に基づき、本市の歴史を総合的・体系的に叙述します。

「古きをたずねて、新しきを知る」。この事業を通して、歴史文化都市・津山が未来を切り拓く手がかりを見いだせることと思いますので、市民の皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

# 新『津山市史』の編さんに際して

津山市史編さん委員会委員長 三好 基之

『津山市史』の新たな編さんが始まった。前の7冊本の『市史』は昭和40年（1965）の編さん委員会設置から平成7年（1995）までの、実に30年にわたって、ようやく完成をみた。

現在の知新館に津山市立郷土館が設置された理由の一つは、『市史』の編さんを行うためでもあったが、そこから数えるとかかなりの年月を経て7冊本の『市史』は完成した。もともと7冊にする計画が最初からあったわけではないが、結果的には編さん委員が1人1冊を書くということになり、しかも原稿が完成した時代から出版するというところで、こういう結果となった。

今回の『市史』編さんの目論みは、平成の大合併による地域の拡大、美作国成立1300年などを契機に計画されたものであろう。町村の市への合併は、多分に政治的なものであるが、どのような意

図があろうとも、美作という運命共同体の上に展開される以上、『市史』もまた、それを意識したものになるはずである。

新『市史』の編さんを始めるにあたって、津山市はその後、多くの歴史資料を得ることができた。津山郷土博物館や洋学資料館に新たに多くの資料が集積された。弥生の里文化財センターの研究者によって、新たな発掘資料を得たが、特に津山城の発掘が進められ、伝承の域を出なかつた城の歴史に学問上の成果を加えることとなった。手前味噌になるが、新訂・増補『美作略史』の公刊により、古代・中世の文献資料を一層集約することができた。

そして何よりも、編さん委員に若き研究者が多数参加して下さることがうれしい。市民のために楽しめる『市史』の早い完成を祈るとしよう。

## 編さん委員会の顔ぶれ（順不同・敬称略）

### ○委員

河本 清	元くらしき作陽大学教授	自然風土・考古担当
可児 通宏	くらしき作陽大学非常勤講師	自然風土・考古担当
狩野 久	奈良文化財研究所名誉研究員	古代担当
今津 勝紀	岡山大学教授	古代担当
三好 基之	元ノートルダム清心女子大学教授	中世担当
久野 修義	岡山大学教授	中世担当
定兼 学	岡山県立記録資料館館長	近世・近現代担当
在間 宣久	前岡山県立記録資料館館長	近世・近現代担当
香山 加恵	津山女性史研究会代表	近現代担当
前原 茂雄	蒜山郷土博物館館長	中世・民俗担当

### ○執筆者

能美 洋介	岡山理科大学教授	自然風土・考古担当
森 俊弘	真庭市教育委員会勤務	中世担当
山本 太郎	倉敷市総務局歴史資料準備室勤務	近世担当
東 昇	京都府立大学准教授	近世担当
横山 定	岡山県教育委員会勤務	近世担当
妻鹿 淳子	前岡山地方史研究会会長	近世担当
森元 純一	和気町教育委員会勤務	近世・近現代担当
北村 章	岡山県立記録資料館嘱託	近世・近現代担当
山下 香織	岡山県立記録資料館嘱託	近世・近現代担当
沢山美果子	岡山大学大学院客員研究員	近世・近現代担当
日下 隆春	鏡野町教育委員会勤務	近現代担当
山下 洋	福山市史編纂室嘱託	近現代担当
森元 辰昭	清心中学校・女子高校非常勤講師	近現代担当
小西 伸彦	吉備国際大学准教授	近現代担当
首藤ゆきえ	井原市文化財センター研究員	近現代担当
安倉 清博	民俗研究家	民俗担当
平松 典晃	倉敷翠松高校非常勤講師	民俗担当
井上 靖子	備前市歴史民俗資料館学芸員	民俗担当
立石 憲利	岡山民俗学会名誉理事長	民俗（民話）担当

# 編さん方針・事業計画を協議

会議の様子



委嘱状交付



## 第1回

平成25年7月24日

於 市庁舎第2委員会室

まず、田村教育長が所用で欠席の市長に代わってあいさつした後、編さん委員をお願いする10名の方々に委嘱状を交付しました。

続いて事務局側の職員紹介の後、議事に入り、委員長に三好委員、副委員長には河本委員が選任されました。

初の委員会であるため、事業を推進する編さん室をめぐる組織・体制についての質問や確認があり、そのうえで編さん方針に関するさまざまな課題点について、率直な意見交換が行われました。

そして、執筆者選定のため、時代によって区分された部会を立ち上げ、早めに各部会を開催して議論し、その結果を次の委員会に持ち寄ることとなりました。

## 第2回

平成26年3月24日

於 郷土博物館研修室

教育長のあいさつに続いて、各部会での協議内容が事務局から報告され、議事に入りました。

まず、部会編成の根拠となる時代区分について、一部を整理・修正する案が提案・承認されました。

続いて、巻数・内容構成や刊行スケジュールに関する事務局案が検討され、一部が変更されましたが、通史編6巻・資料編5巻の11巻構成とすること、刊行終了後に簡易版の市史を出版することなどが決まりました。

その後、26年度の事業計画案が議論され、各委員からは主に調査活動に関する意見や要望などが寄せられ、ほぼ事務局の原案どおりに承認されました。

# 部会通信

新しい市史の編さん事業は、6つの部会で分担して進めています。各部会の今までの取り組みをお知らせします。

## 自然風土・考古部会

(部会長…河本委員、副部会長…可児委員)

部会の発足後、2回の部会を開催し、全体の構成を検討し章立て案を作成しました。自然風土は、生活基盤としての津山の自然状況(地質・地理)を叙述するもので、岡山理科大学の能美洋介氏に執筆していただきます。考古は、旧石器時代から古墳時代までを担当します。執筆は、文化課の埋蔵文化財担当職員が行うこととし、それぞれ準備に取りかかっています。

また、考古の資料編を出す予定ですので、発掘調査報告書が未刊の遺跡をリストアップし掲載するつもりですが、古い時期の調査が多く当時の写真や図面がないなど、整理にあたっての課題もあります。さらに、出土遺物が東京国立博物館など他の施設に収蔵されているものもあり、これらの調査も今後必要となります。

## 古代部会

(部会長…狩野委員、副部会長…今津委員)

古代編の編さん方針について協議中です。古代は、美作国の成立前から平安末期までを担当します。主な部分を今津委員が執筆することになりましたが、その他必要な部分については順次執筆者を依頼していく予定です。

今年度は、調査活動の手始めとして津山地域の巡検調査を計画しています。市内の後期古墳や須恵器を作っていた窯跡などを見て回る予定です。まず部会員に地域のイメージを把握していただき、本格的な調査に移ります。

## 中世部会

(部会長…三好委員、副部会長…久野委員)

本会には前原委員と執筆者の森俊弘氏にも加わっていただき、中世編の編さん方針について協議しています。中世は、平安末期から森家の美作入封までを担当します。

今年度に入ってから少しずつ資料調査を始めており、資料の所在情報が寄せられると、調査に向かっています。また、本会でも市外委員のために巡検調査を計画しています。美作国に多く築かれた中世の山城や、荘園の故地などを調査して回る予定です。



## 近世部会

(部会長…定兼委員、副部会長…在間委員)

今までに2回の部会を開催し、委員を含む10名の外部執筆者と事務局職員が執筆を分担することとなりました。近世は、主に森家の美作入封から廃藩置県までを担当します。

中世以前とは違って残存資料が膨大なうえ、元禄期以降は支配状況が複雑なため、限られた期間の中で効率よく、かつ各地域から偏りなく、資料を集約する必要があります。そのため、既に活字化または郷土博物館などに収蔵済みの資料の精査と、新規開拓の資料調査とを同時並行で進めています。また、10月には市内の巡見調査を実施します。そして、今年度中に各部会員が10点ずつの採録候補資料と森家時代での担当範囲をリストアップして持ち寄り、資料の取捨選択と通史編の内容構成の検討を進める予定です。

## 近現代部会

(部会長…在間委員、副部会長…香山委員)

これまで4回の部会と1回の巡見調査を行いました。編さん委員3名、執筆者9名の体制で、明治の廃藩置県から平成の市町村合併までを担当します。大正と昭和の間で区切って2巻に分けることとし、各時代の章立案を作成しています。現在の津山市域の近現代を網羅する記述を目指します。

8月22日に巡見調査を実施し、市内各支所に保存されている行政文書の概略を調査しました。久米・阿波・加茂・勝北の各支所を1日で回ったため、それぞれの調査時間は1時間ほどでしたが、津山市の行政文書の現状がよくわかる、有意義な調査となりました。

今後は、支所以外の市内各地に残る近現代資料の調査と並行して、各支所保存文書の本格的な調査を行っていく方針です。

## 民俗部会

(部会長…前原委員、副部会長…安倉氏)

本会では、地域の風習・風俗や口頭の伝承などを担当し、民俗編と民話の別巻を刊行する予定です。そこで、民俗と民話で担当を分け、それぞれに協議を重ねつつ、調査を始めたいです。

民俗では、昨年度に2回、今年度からは執筆者3名を加えて2回の部会を開催、調査の方針や方法について確認しました。来年度までに、市内各地を回って地域に関する様々な項目の聞き取り調査を行う予定です。今までに約30名の方々から貴重なお話を伺いました。この他に、民具や祭礼に関する調査も進めています。

民話では、民話研究者の立石憲利氏を中心として3月から調査を開始しました。勝北や加茂で民話の採録を行い、のべ13名の方々から貴重なお話を伺いました。あわせてアンケート調査を実施し、より多くの民話の収集を目指しています。

## 新しい市史の編さんを開始しました

本市では、昨年度から新しい『津山市史』の編さん事業を開始しました。従来の『津山市史』は、昭和47年（1972）から平成7年（1995）にかけて、全7巻が刊行されましたが、その後の研究の進展や合併による市域の拡大にともない、新しい市史を待ち望む声が高まっていました。

昨年来の事業内容は、本紙の各ページで紹介しているとおりで、今年度から各部会で調査活動を開始しています。

市の歴史を書き残して後世に伝える大切な事業ですので、市民の皆様のご協力が欠かせません。どうぞよろしくお願いいたします。

### 皆さんのお宅に古い資料がありませんか？

お引越しや家の整理・片付けの際、古い道具や写真・書類などが出てきたら、ぜひご一報ください。

### 編さん室の調査活動にご協力ください

資料の所在確認や古い風習・習俗の聴き取りなど、編さん室から調査員が市内各地へ出向いて調査活動を行う機会が今後増えてまいります。その際は、ご協力をお願いします。

### 編さん事業に関する情報提供について

今後の事業進展に関する情報については、ホームページ上で随時更新していきます。また、今年度以降、1年に2回程度「津山市史だより」も発行します。

▼市史のホームページ：津山市ホームページ↓市政↓津山市史

<http://www.city.tsuyamama.jp/index.cfm/23,0,200.html>

### 編さん事業の経過

平成25年

3月26日

津山市教育委員会にて津山市史編さん委員会規則を制定

4月1日

教育委員会内に津山市史編さん室を設置

7月24日

第1回編さん委員会

10月23日

第1回幕末・維新・洋学史、近現代合同部会

11月27日

第1回地質・地理・考古部会

11月28日

第1回近世部会

12月1日

第1回民俗部会

平成26年

1月16日

第1回古代部会

1月25日

第1回中世部会

2月21日

第2回幕末・維新・洋学史、近現代合同部会

2月23日

第2回民俗部会

2月24日

第2回地質・地理・考古部会

3月11日

近世・近代部会調整会議

3月24日

第2回編さん委員会

4月17日

26年度第1回近現代部会

4月26日

26年度第1回民俗部会

5月6日

26年度第1回近世部会

5月17日

26年度第2回近現代部会

7月5日

26年度第2回民俗部会

8月22日

近現代部会全体調査（支所保管文書調査）

# 綴じ違えられた江戸日記

小島 徹

津山藩松平家では、国元の津山と江戸藩邸の双方において日記を付け、藩政を記録していました。前者は「国元日記」、後者は「江戸日記」と総称されます。日記は1か月単位で管理され、毎月写し

を作っては送り合っていました。そして、ある時点で6か月ごとに綴じ合わされ、1年が正月〜6月と7月〜12月の2冊に分けて保存されました。これらの日記を所蔵する津山郷



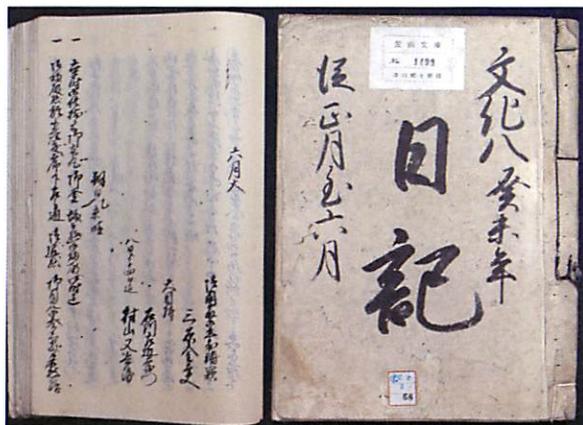
3冊現存する文化10年正月〜6月の江戸日記

右から E2-1-223、E2-2-73、E2-2-74。  
上は各冊子の表紙。下が6月冒頭部で、E2-2-74 は他の2冊と異なる。

土博物館では、今年6月からネット上で江戸日記の画像を公開していますが、画像撮影の準備段階で思わぬ発見がありました。

先述のとおり、江戸と津山で日記の写しをやり取りしていたため、同じ時期の日記が複数冊存在する場合がありますが、3冊現存する文化10年（1813）の日記のうち、1冊は6月分が他の2冊と違うのです。調べた結果、1冊しかない方が正しく、2冊ある方は文化8年6月の日記だと判明しました。つまり、この2冊は違うものが綴じ合わされているのです。

このような綴じ違えが、なぜ起きたのでしょうか？しかも、同じように間違えたものが2冊あり、一方は江戸保存分で、もう一方は津山保存分だと思われれます。まさか、江戸と津山の双方でたまたま同じように綴じ違えが起きたとは思えません。考えれば考えるほど不思議なことです。この時期の日記の精読により、何か手掛かりが見付かることを期待します。



文化8年正月〜6月の江戸日記 (E2-2-68)

右は表紙。左が6月冒頭部で、E2-1-223、E2-2-73と一致。

もしかすると、他にもこのような綴じ違えが存在するのかもしれませんが。いずれにせよ、津山藩における日記の保存管理過程を探るうえで興味深い発見です。また、膨大な量の資料を分類・整理して保存するという点では、市史編さん事業においても同様の作業が必要となりますが、この先人の誤りを他山の石として作業の正確を期するよう、自らを戒めているところ

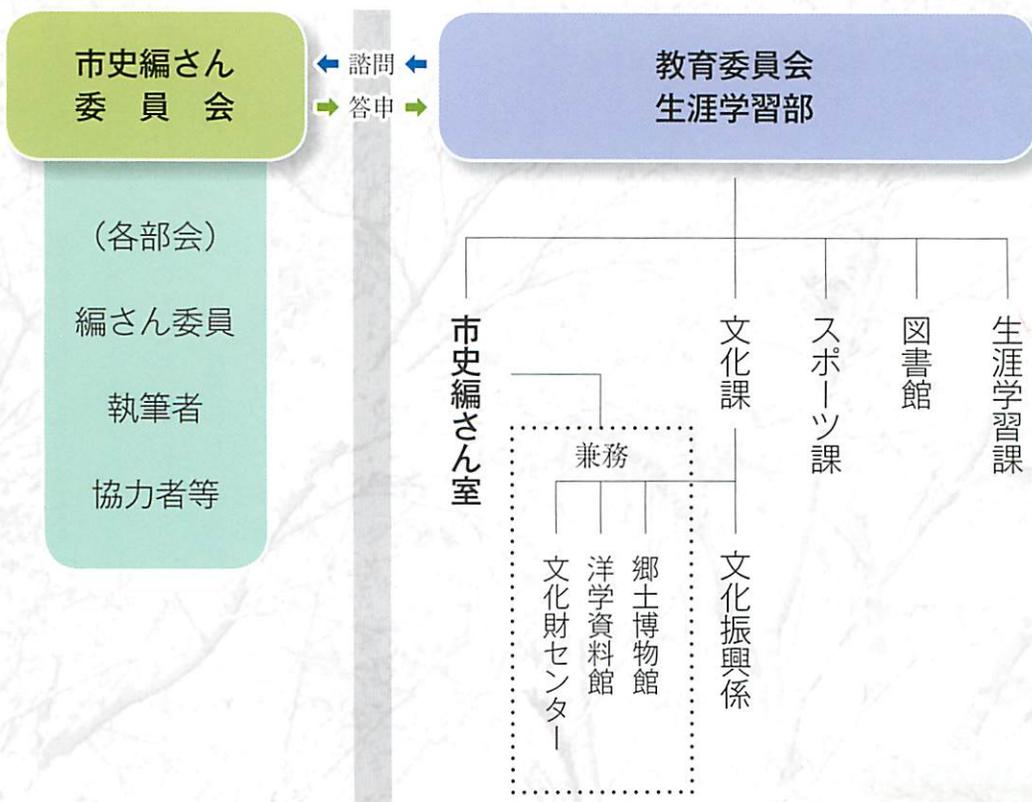


## 旧版『津山市史』について

旧版の『津山市史』の構成は、次のとおりです。

- 第1巻：原始・古代
  - 第2巻：中世
  - 第3巻：近世Ⅰ（森藩時代）
  - 第4巻：近世Ⅱ（松平藩時代）
  - 第5巻：近世Ⅲ（幕末維新）
  - 第6巻：現代Ⅰ（明治時代）
  - 第7巻：現代Ⅱ（大正・昭和時代）
- 現在、販売用の在庫があるのは、第4巻と第7巻のみです。第4巻は3000円、第7巻は2200円で、郷土博物館にて販売しています。
- なお、郷土博物館や市立図書館では、全7巻をそろえて一般の方の閲覧に供しており、館内での閲覧が可能です。

## 編さん室の組織・機構



津山市史だより  
創刊号

発行：平成26年10月1日  
編集：津山市史編さん室

〒708-0022 岡山県津山市山下92 津山郷土博物館内

TEL：0868-22-5820 FAX：0868-23-9874 Eメール：tsu-haku@tv.tn.ne.jp